

令和7年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立梁田小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

計画通り実施できている

- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

実施している

- ・実施していない

(3) 自校における評価

- ・第1学年から英会話学習を実施し、ALTやEAAによる英語の発音を聞いたり発音の仕方をまねたりすることを行い、英会話のリズムに触れ、楽しく活動を行うことができた。また、楽しく活動を行うことにより、英語によるコミュニケーションの基礎的な能力を育成することができた。
- ・第1学年から英会話学習を実施し、日常で使う英会話の練習を行うことで英語の表現に慣れ親しみ、コミュニケーションの楽しさを味わえるようになってきた。また、具体物の準備により英会話への興味や関心を高めることができ、積極的にコミュニケーションを行おうとする児童が多くなってきた。
- ・小教研足利支部外国語部会として授業研究を行うことで、言語活動を楽しんだり主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童が増えた。

(4) 学校関係者による評価

<児童>

- ・英会話学習に意欲的に取り組み、楽しみながら活動できた。
- ・ALTやEAAと給食を一緒に食べる際にコミュニケーションを取ったり、廊下などでも積極的にあいさつしたりと進んで交流する様子が見られた。
- ・「英語チャレンジデイ」(5・6年)では、英語を使って自己紹介やゲーム、会話練習を行うことを通して、実践的なコミュニケーション力を高めることができた。

<保護者>

- ・第1学年からの英会話学習を実施することにより、英語への関心意欲や、基礎的な英会話能力の向上につながっていると感じている。
- ・第1学年からの英会話学習を実施することにより、英語を身近に感じて、親しみをもってきていると感じている。
- ・第1学年からの英会話学習の実施によって、外国語や外国の文化に対する理解や興味・関心が高まっていると感じている。

3. 実施の効果及び課題

<効果>

- ・令和7年度小教研足利支部外国語部会として授業研究に取り組み、英語への関心と英語に触れるという雰囲気が高まり、英会話が「特別な時間」から、「日常の一部」となった。また、児童が自信をもって取り組めるようになった。取り組みを通して児童間で自然に英語で会話をする場面が見られるようになった。
- ・以下のような工夫を行い、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を図ることができた。
 - ①必然性のある場の設定（授業の工夫）→目的・場面・状況を明確にする。
 - ②中間指導によるフィードバック→よいところだけでなく、うまくいかなかったところや分からないことなどを共有する。
 - ③多感覚を使った活動を取り入れる。→chant や song で体を動かす、モールでイニシャルを作るなど。
 - ④振り返りカードの工夫
 - ・めあてを GOAL に統一し授業の初めに提示する。
 - ・授業後は振り返りを書かせる。
 - ⑤ICT の活用→導入時のあいさつや活動の説明などで取りれ、興味を持たせる。
 - ⑥日常的に英語に触れる教室環境（リアクションカード、月、曜日、などの掲示）
 - ⑦Daily English による英語への慣れ親しみ（朝の会や帰りの会などで活用する。）
- ・以下のような児童の変容が見られた。
 - ①外国語が好きになった。
 - ②友達とインタビューをし合うことが楽しい。英語が分かったと嬉しい。
 - ③「smile」「eye contact」「clear voice」「response」を意識した、進んで友達とやりとりをする生き生きとした Activity での活動。
 - ④「Me too.」「How about you?」などの反応表現やジェスチャーを使って活動する姿。
 - ⑤自信をもって学習に取り組む児童の姿。
 - ⑥普段から英会話でやり取りする様子。

<課題>

- ・教師やALT、EAA が指導を行う時間が長くなる傾向があった。また、活動が長引いてしまい、振り返りや共有の時間が十分にとれないことがあった。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・授業中の声かけやヒント（ジェスチャーや掲示）等を工夫することで、すべてを教師が教えるのではなく、児童から引き出していけるようにしていきたい。また、児童の活動や発表を重視しすぎてしまい振り返りの時間や共有する時間足りなくなることがあったため、授業の組み立てを意識するなどの工夫をしていきたい。